

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4.3	1	4前期・選択 3前期・必修
担当教員			
横田 香世			
金1、2、3、4			
添付ファイル			

科目の概要	医療安全における基本的な知識、および看護職の責務と役割、医療現場における危険の予知と回避、および事故防止などの安全対策の理論と方法について演習を加えながら講義する。
授業の内容	<p>第1回 医療安全と看護の理念 医療安全を学ぶことの重要性を理解できる。</p> <p>第2回 医療安全への取り組みと医療の質の評価 医療安全の取り組みについて理解できる。医療の質の評価の必要性について理解をできる。</p> <p>第3回 事故発生のメカニズムとリスクマネジメント ヒューマンエラーのメカニズムとリスクマネジメントについて理解できる。</p> <p>第4回 患者・家族との協同と安全文化の醸成 安全対策には患者・家族の協同が必要であることを理解することができる。</p> <p>第5回 看護における医療事故と安全対策／在宅看護における医療事故と安全対策 看護業務に関わる医療事故の背景、要因。対策について学び、グループでディスカッションをしながら安全対策の重要性についてを考慮することができる。</p> <p>第6回 医療従事者の安全を脅かすリスクと対策／医療事故後の対応 感染に対する標準予防策と感染経路別予防対策について理解できるようにする。また、医療事故後の対応について理解できる。</p> <p>第7回 看護学生の実習と安全 実習中の事故予防および事故発生時の学生の対応について学び、実習が安全にできる。</p> <p>第8回 演習、まとめ 医療安全および感染予防について、グループでディスカッションをしながら専門職としてどう向き合っていくべきか考えることができる。</p> <p>第9回 定期試験</p>
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・医療安全の基本的な知識や看護職のリスク特性を説明できる。 ・ヒューマンエラーの知識を活かした事故防止策について説明できる。 ・事故報告の意味と必要性について説明できる。
授業の方法	<p>【授業形態】 講義、演習、グループワーク、発表</p> <p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】 講義内容についてテキストや資料を用いて事前学習を行い、課題について調べて主体的に学修に参加する。</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】 遠隔講義・質疑応答</p> <p>【その他特記事項】</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 授業への出席・参加状況、課題レポート、グループワーク、発表</p> <p>【割合】 課題レポート80%、グループワーク・発表 20%</p>
教科書・テキスト	ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践(2)：医療安全 第3版 松下 由美子 編著 メディカ出版
参考書	・ナースのための危険予知トレーニングテキスト 杉山 良子著 株式会社メディカ出版
授業時間外の学修について(事前・事後学習について)	日常のヒューマンエラー、臨地実習での経験を基にした事前課題に取り組んでから授業に参加する。予習においてはテキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする。また、復習においてはテキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深める。
履修上の留意事項	テキスト上の関連動画がある場合は視聴できるようにアプリのダウンロード等を推奨する。遅刻・欠席はしないこと。携帯電話は授業中は使用しないこと。
オフィスアワー	講義日 12:10～13:00
課題に対するフィードバックの方法	課題について調べてレポートを提出する。レポート内容についてコメントをしフィードバックする。また、各授業毎に振り返りを行い質問に対して答える。
実務経験	看護師(慢性疾患看護専門看護師) 看護管理者
その他	